

新発田市 令和元年度 第10回定例記者会見

- 1 日 時 令和2年1月9日(木)午前11時～
- 2 場 所 ヨリネスしばた501会議室
- 3 内 容
東京2020オリンピック聖火リレーの市内ルート・ランナー決定
日本酒文化啓発講座「大人の嗜み『日本酒』を始めよう。」
「『出張』内の倉ダムコンサート」
「城下町しばた全国雑煮合戦」
「芝高書道パフォーマンス&わくわく書道体験」
歴史図書館ガイダンス映像が全国地域映像コンクールで受賞
「自主防災シンポジウム2020in新発田」
イクネスしばたハッピースマイル写真館
婚活イベント「ぽかぽかカフェでほっこりランチ～恋の花咲くハーバリウム作り～」
介護予防講演会
市民囲碁大会

あいさつ

皆さん、明けましておめでとうございます。健やかな新年を迎えられたことと思います。今年もよろしく願いいたします。

ご覧のような天気です。雪が少なく、除雪費をある程度予定していましたが、除雪をしなくても良さそうだということで、どうしても市の財政を預かる身となれば、顔がゆるむのもやむを得ないところです。

さて、1月7日(火)に、恒例の新春を祝う会を執り行わせていただきました。取材にお越しくださった記者の方も、いらっしゃると思います。感謝を申し上げます。

私は毎年、一年の言葉を胸に刻んで、市政にあたることにしています。その言葉を、新春を祝う会で市民の皆さんに発表することを恒例としています。

今年は「^{れん}連」という漢字にしました。これは、「連れ合う」とか「連なる」ということです。人と人、地域と地域、過去から現在、現在から未来というような、連続性という意味を込めているわけです。しっかりこの言葉を胸に刻んで、市政にあたっていきたいと思っています。

今はちょうど、予算編成時期です。私がとりわけ注目しているのが、これまで、3つの柱で市政を運営してきましたが、そこに新たに健康長寿を加えて、4つの柱にしました。

去年は、「健康長寿アクティブプラン」の策定に1年を費やさせてもらい、いよいよ健康長寿の取組を令和2年から行うこととなります。

4月には、「健康長寿アクティブ交流センター」を開設します。ここは、「健康長寿」の拠点施設となるわけです。

健康長寿アクティブ交流センターを作っただけというわけではありません。あくまでも、市民と行政との「^{れん}連」、地域と行政との「^{れん}連」、あるいは企業と行政との「^{れん}連」、保健団体、教育機関との「^{れん}連」ということで、分かりやすく言えば、「オールしばた」ということとなります。

「オールしばた」で健康長寿の柱をしっかり支えていきたいと思っすし、新春を祝う会でもお話ししましたが、やはりこれからのまちづくりは、「ワンチーム」ではない。「ワンエリア」で考えていかなければならぬと思うと思っています。

とりわけ、下越の都、阿賀北の雄と標榜する限りにおいては、新発田市がその任を担わなければならないと、改めて覚悟すべきだということをお話させていただきました。

観光を含めてそうではありますが、広域連携の「^{れん}連」を大事にしていきたいと思っています。

2月には、ベトナムに行ってきます。これはワッカジャパンがベトナムに進出したということに加えて、ジャパンフェスティバルが現地で行われるためです。

また、新潟ベトナム協会の会長を務めているのが、当市にある企業・TOWA JAPAN の社長であることから、この方にいろいろと配慮をいただきながら、エージェントとの調整や米の販売などについて取り組んでいきます。

こうしたアウトバウンドの取組についても、広域自治体にも声を掛けていき、下越または阿賀北の物産も含めて、新発田市がリードしながら世界に向けて広めていきたいと思っています。

それでは、会見項目を説明いたします。

最初に、「東京 2020 オリンピック聖火リレー」について

6月6日（土）に、市内で東京 2020 オリンピックの聖火リレーが行われます。先日、聖火リレーの市内ルートと聖火ランナーが決定しましたので、当市に関連する事項について、私の方からもお知らせします。

まず、市内ルートは新発田城址公園をスタートし、歴史・文化が感じられる清水園や寺町などを通り、ヨリネスしばたをゴールとする経路をたどります。

ルートの設定にあたっては、「いにしえから未来へつなぐ新発田の心」をコンセプトに、聖火リレー組織委員会に働き掛けてきました。

まさに、いにしえを表すものが「新発田城」であり、そして、未来への希望を表すものが「ヨリネスしばた」です。掲げたコンセプトをもとに、この2つのシンボルを結ぶコースとしたことが、同組織委員会から高く評価されたと聞いています。

私が、今年の新発田市政の羅針盤としたキーワードは「^{れん}連」であります。「いにしえ」と「未来」をつなぐという今回のコンセプトにも因縁めいたものを感じますし、それが評価されたということをお大変嬉しく思っているところです。

そして、聖火ランナーは県実行委員会の選考枠で選出された方々のうち、当市からは出来島桃子さん、^み^お美遠さゆりさんの2名が選出されました。

出来島さんは、当市の職員として勤務する傍ら、ノルディックスキーの選手として、過去に4回、パラリンピックに出場しています。

もう一人の^み^お美遠さんは、卓球選手として数々の国際大会で優秀な成績をおさめるなど、これまでに大変な活躍をされており、東京パラリンピックへの出場が期待される選手です。

ランナーは、このほかに、協賛企業 4 社による選考枠も設けられており、各社から別途発表があり、選出されたランナーが走行する区間などは、今後、聖火リレー組織委員会から発表されると聞いています。

オリンピックの聖火ランナーが市内を駆け抜けるということは、そうはありません。ぜひ、新発田の風を感じながら、走ってもらいたいですし、沿道にも多くの方々にお集まりいただき、いっしょに世紀のイベントを盛り上げてもらいたいと思っています。

次に、日本酒文化啓発講座「大人の嗜み『日本酒』を始めよう。」について

2月22日(土)に、日本酒の魅力を発信することをテーマとした講座が開催されます。

これは、敬和学園大学が主催し、菊水酒造株式会社と新発田市が共催して行うものです。

敬和学園大学では、地元・新発田について学ぶ「地域学」の授業を行っており、その一環として、学生たちが地元企業である菊水酒造の協力を得ながら、酒造りや日本酒文化について学んでいると聞いています。

新発田には4つの酒蔵があり、日本酒とも馴染みの深い土地柄であることから、今回は、広く一般の方にも新発田の日本酒文化について知ってもらうために、地域連携の取組として同大学が企画しました。

内容は、第1部として菊水酒造の方による講演のほか、敬和学園大学の学生による日本酒造り体験についての発表があります。

また、第2部では、菊水酒造の日本酒文化研究所の見学や同社自慢のお酒の試飲をお楽しみいただけます。

今では、日本に居ながらにして、様々な国々のお酒を楽しむことができ、国内では若者の日本酒離れが進んでいます。

一方で、海外では和食ブームの高まりとともに、日本酒も人気が出ていると聞きます。

この機会に、身近にあるわが国ならではのお酒「日本酒」の魅力を多くの方に知ってもらい、日本酒文化のみならず、日本文化全体に目を向けてもらう、きっかけにしていただければと思っています。

次に、「出張」内の倉ダムコンサートについて

1月18日(土)・19日(日)に、ヨリネスしばたの議場を会場に、出張・内の倉ダムコンサートが開催されます。

これは、ダムを奏でる会が主催し、毎年、内の倉ダムの内部にある空洞を会場として、独特の残響音を楽しむコンサートを開催しており、そのイベントの出張版となるものです。

会場となる議場では、通常はダム内の残響音を聞くことはできないわけですが、東京芸術大学の研究チームが、この音を再現することに成功したため、研究成果の発表を兼ねてコンサートを開催することになったとのこと。

当日は太鼓やギター、オカリナなど、さまざまな楽器を使った演奏を聞くことができるほか、希望者はダムの音響効果の演奏体験もできるそうです。

申し込みは不要で、無料で参加できるとのことです。大変珍しいイベントですので、ぜひ多くの方に、会場を訪れていただきたいと思います。

次に、「城下町しばた全国雑煮合戦」および「芝高書道パフォーマンス&わくわく書道体験」について

新春恒例のイベントを2つ紹介します。

1つ目は、1月12日(日)に開催する、毎年恒例の「城下町しばた全国雑煮合戦」です。

新発田の冬を代表するイベントとなった雑煮合戦を、今年もヨリネスしばた及び周辺商店街で行います。

今年は、サブイベントとして、フードファイターのおごせ綾^{あや}さんを招き、新発田名物「アスパラみどりカレー」の大食い対決を行います。

そのほかにも、新発田祭りをテーマにしたダンスや歌のショー、市内の小中学生による新発田の魅力発表会、開運もちまきなど、雑煮以外にもお楽しみいただくことができる、さまざまなアトラクションがあります。

三連休の中日に開催されますので、ぜひ市内外から多くの皆さんに会場を訪れてもらい、新発田の冬のイベントを楽しんでいただきたいと思います。

2つ目の話題は、今年で2回目となる「芝高書道パフォーマンス&わくわく書道体験」です。

1月26日(日)に開催されるこのイベントは、新発田高校書道部の部員たちが会場に広げられた巨大な紙の前に、音楽に合わせて書道パフォーマンスを披露するものです。

今年は、7月に開催される東京オリンピックをテーマにした発表になると聞いています。巨大な筆を縦横無尽に走らせ、用紙いっぱい描かれる書は本当に見事です。

また、会場となるヨリネスしばたの3階から、パフォーマンスの様子を見下ろすと、さらに見応えあるものになります。

また、どなたでも本格的な書道を体験できるワークショップも同時開催します。

地元の高校生が書道を通じて、新発田の新春を盛り上げてくれるイベントとなりますので、多くの市民の皆さんにご来場いただきたいと思います。

次に、歴史図書館ガイダンス映像がコンクールで奨励賞を受賞した件について

当市の郷土史を知ってもらうために制作したガイダンス映像が、「第17回全国地域映像コンクール」で、「梶原^{かじわら} 拓^{ひろむ}記念奨励賞」を受賞しました。

このコンクールは、地域で制作された文化資産などに関する映像を広く募り顕彰することで、「地域の文化」の継承などに寄与することを目的として、行われていると聞いています。

また、受賞名にある梶原^{かじわら} 拓^{ひろむ}さんは、同コンクールを初めて開催された際に、当時、岐阜県知事で全国知事会会長を務められていた方であり、同氏が地域活動の振興に大変熱心な方であったことから設けられた賞であると聞いています。

このたび受賞した映像は、平成 29 年に制作し、所蔵する資料をもとに、歴史図書館の職員が台本づくりを担当するなど、業務の大半をセルフプロデュースにより制作したものです。

内容は 5 部構成になっており、新発田の歴史上の人物をテーマにしたものや、米どころ新発田を作り上げる基となった「蒲原平野の開拓」にスポットを当てたものなど、多様な切り口によってまとめられています。

平成 30 年 7 月の歴史図書館の開館から、館内にある大型ディスプレイや同館ホームページで公開しています。また、コンクールの主催者である、NPO 法人・地域文化アーカイブスのホームページでも公開しています。

評価をいただいた映像をより多くの方にご覧いただきたいですし、この機会に同館を訪れていただき、新発田の歴史に対する興味を深めてもらいたいと思っています。記者の皆さんにおかれては、ぜひ、PR にご協力いただきますようお願いいたします

このほかの情報としては、市民の方に、自主防災の重要性について考えてもらうため、県との共催で行う「自主防災シンポジウム 2020 in しばた」についての情報があります。

また、飲み込み機能の低下予防をテーマとした「介護予防講演会」など、いくつかの話題があります。

一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田を盛り上げていただきたいと思います。